

第14回(平成28年度)助成団体の活動成果について

平成29年5月13日(土)に開催の成果発表会にて、各団体による活動成果の報告が行われました。

	団 体 名	活動企画案内	助成金額
助 成 団 体 部 門	こうご まち サロン会	庚午北3丁目にも高齢者サロンを！ひだまりサロン	5万円
	(広島市学校栄養士OB) 食育グループパクパク	子どもの心と体を育む「食育教室パクパク」	5万円
	プチボカ会	まちづくりフォト支援活動	3.8万円
	計 3団体		13.8万円
ま ち づ くり 活 動 発 展 助 成 部 門	真亀一丁目花の会	団地を花いっぱい	15.8万円
	湯来里山会	畑ガールプロジェクト	10.2万円
	八幡東ほうれんそうネット	子どもが主役の遊びで学ぶ防災ワークショップ	12万円
	観光アシスタントひろしま	平和公園のガイド依頼『全件受入れ』を目指して / 観光アシスタントひろしま	26.3万円
	特定非営利活動法人 フリースクール木のねっこ	学びを深めるフリースクール活動	27.6万円
	特定非営利活動法人 虹橋の会	中国帰国者の力を生かして「ヒロシマの心」を広く 伝えよう	40.7万円
	鯉城の会	市外から訪れる障害者の介助／鯉城の会	16.5万円
	広島湾岸トレイル協議会	広島湾岸トレイルの広報、開発、維持管理、運営	48.3万円
	美鈴が丘西集会所管理委員会	集会所クールシェア・エコライフ (グリーンカーテン＆子どもエコ教室)	5.9万円
	笑顔つながり隊	子育てと健康と地域をつなぐ活動	31.6万円
	プラットホーム安芸飯室運営委員会	リボーン安芸飯室駅～道の駅として	37.9万円
	アーキウォーク広島	地域のお宝！被服支廠の価値共有プロジェクト	26.5万円
	計 12団体		299.3万円
	合計 15団体		313.1万円

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	庚午北3丁目にも高齢者サロンを！ひだまりサロン
②実施期間	2016年 4月 1日 ～ 2017年 3月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催 こうご まち サロン会 共催 庚午民生委員 児童委員 庚午地区社会福祉協議会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 毎月第1・3金曜日、午前10時より正午までの2時間、庚午北3丁目の真宗光明団の建物内施設を借りて、庚午地区の高齢者を対象に、庚午民生委員が主なスタッフとなり開催している。 徐々に参加者も増加し、最近は毎回20名前後の高齢者が集まる。また、50歳代の近所の方々もスタッフとして参加してくださっている。 第1金曜日は、参加者の方とお抹茶を点てて味わう事、第3金曜日はお誕生日会とシナプソロジー（認知機能低下防止プログラム）を行う事、毎回最後に「北国の春」と「日本チャチャチャ」の曲で体操を行う事は決まっているが、その他に毎回何かひとつ目玉となる行事を入れるようにした。 今までに、キーボード、琴、篠笛、フルートの演奏を聴いたり、歌ったり、唾液分泌増加を促す口の運動や、顔のマッサージや早口言葉、都道府県名を漢字で書いてもらってビンゴゲームをしたり、絵の間違い探しのゲームもしました。 また参加者が自身で実践している良い運動の話、旅行の話、昨夜の晩御飯のメニュー、季節のおすすめ料理のつくり方など、必ず全員に少しでも発言してもらうようにしている。
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 話し好きな方は、よく喋ってもらえるが、そうでない方はなかなか自らみんなの前で発表してもらうことができないので、今はこちらから指名して、一言でも話していただくようにしている。もっとみんなが親しくなって、大声で談笑するような集まりにしていきたい。 参加者がだんだん増えて30人を超えた時もあり、椅子を出す場もないほどだったので、テーブルと椅子の配置や多人数の時の行事内容の工夫が必要になってきた。 また、男性の参加者も毎回2～3人はあるようになってきたので、さらに増えたら良いと思う。 参加者のほとんどが70歳代後半～80歳代の方々なので、60歳代の方にスタッフとしての参加も期待している。 将来は高齢者の方々自身で運営活動できることを希望する。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	子どもの心と体を育む「食育教室パクパク」
②実施期間	平成28年 5月14日 ～平成29年 3月25日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 食育グループパクパク 広島市立・私立幼稚園 笑顔つながりたい「矢野の家」 ひろしま食育ネットワーク
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 広島市内の幼稚園に食育教室の案内文を郵送し、希望のあった幼稚園13園の園児・保護者を対象に食育教室を実施した。手作り紙芝居（ももたろう・まめたろう・小さな豆の大きなパワー・きつねとかわうそ・パセリーヌの冒険）の読み聞かせ、望ましいお弁当の作り方、豆の料理のレシピ配布等を通して、分かりやすくポイントを絞った内容になるよう取り組みを行った。参観日に保護者の前で実施したり、保護者対象講演会や、煎り豆を食べる活動を取り入れたり、お泊り保育に合わせて大豆入りカレーライスを食べるなど幼稚園の要望に沿って内容を工夫し食育の効果を上げるよう努めた。 本助成事業の一つ「笑顔つながりたい（矢野の家）」の要請を受けて、「まめたろう」の読み聞かせの後、豆腐を使用した白玉団子づくりを体験する食育教室を実施した。 中国新聞の取材やひろしまFMのラジオ生出演、リビング紙より健康食育フェアへの出演依頼等の反響もあった。
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 教室での指導内容を厳選しポイントを絞ったことで理解が深まった。色鉛筆を使った手作り紙芝居は、色がきれい、温かみがあり内容がわかりやすいなどの特徴があり、初対面の園児、保護者にもわかりやすかったようだ。アンケートを毎回実施して、幼稚園の教師や保護者は、食育の必要性を感じており、食育の内容の新たな希望も提案されていたので、次年度の活動に活かしたい。元学校栄養士としての経験をもとに学校給食のメニューに関連付けた内容の話や、学校給食で使用している豆料理のレシピを配布してよかったので、次年度の食育教室では内容を拡大して実施したい。108園に案内文を郵送したが、申し込みのあったのは13園にとどまった。本事業の目的に挙げたように「幼少期からの食育」は重要と考えるので、食育教室が多く園で実施されることを希望していたが、実施率は12.0%であった。PRの方法をもう少し工夫すれば良かった。また、広島市内の保育園に案内文を送ることが出来なかったのも、来年度はぜひ保育園にも紹介したい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	まちづくりフォト支援活動
②実施期間	平成28年 4月 1日 ～ 平成29年 3月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) やのみー探検隊
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ・「見ぬ友と心結ぶのろしりレー 2016 広島・矢野絵下山」 実施日時：平成28年7月16日(日) 実施場所：広島市安芸区矢野 絵下山山頂 安芸区矢野町の絵下山を起点に、2014年から開催されている「のろしりレー」の活動記録隊として参加した。口田公民館、矢野公民館、安芸区役所にて写真を展示し、活動内容を紹介した。 ・「矢野南バードウォッチング 2017」 実施日時：平成29年2月19日(日) 実施場所：矢野ニュータウン 矢野公民館、矢野南子ども会、矢野南小学校 PTA、やのみー探検隊共催で実施された「矢野南バードウォッチング 2017」に活動記録隊として参加した。撮影した写真は矢野公民館の展示コーナーで活用してもらっている。
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ・様々な角度からの写真が撮れるよう複数人体制で臨むと、幅広い視点の写真を提供することが出来るが、撮る写真の量が膨大になり、写真の選定等に時間がかかり、撮影前準備や写真選定等の撮影後のスケジュール調整などを事前に調整しておく必要があった。 ・展示をすることで活動内容を広く紹介できること、また、自分たちの撮影技術の向上に資すると考えているが、写真を選定し展示を行うためには経費も時間も要するため、会の活動としてたくさんの行事に参加することの難しさを実感した。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	団地を花いっぱい
②実施期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 真亀一丁目花の会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 1 花づくりを通じて地域との交流 (1) 地元真亀保育園児との交流 ○ フラワーフェスティバルの花の塔のペチュニア600株を町内の寺迫公園に植え付ける(5/11) ○ 花壇共同管理区域にサンパチェンス40株、ポーチュラカ200株を植え付ける(6/8) (2) 高陽絆まつり会場にプランターを提供 花の会で育てたポーチュラカのプランター30鉢を祭りの会場のメインステージ前に提供して、祭りに彩りを添えた。終了後は、地元の幼稚園、保育園6箇所に持参して子供たちに喜んでもらった。 2 花壇の運営 (1) 共同管理区域花壇(約300㎡) 夏季(5月～11月) サフィニア300本、ポーチュラカ100本 サンパチェンス40本 植え付け管理 冬季(12月～4月) 葉ボタン300本、パンジー300本 アリッサム100本 植え付け管理。 (2) 個人管理区域花壇(約100㎡) 7ブロックの独立した花壇に、それぞれ管理者が決まっており、自主管理している。季節に合ったお花サルビア、ペチュニア、マリーゴールド、ペンタス、パンジー、葉ボタン、シクラメン、なでしこ、菊などを植え付け管理。 夏場は猛暑が続いたため、朝、夕の水やりはもちろん一部の花には遮光ネットを取り付けるなど、花の管理に苦労した。 3 法面の除草 団地の環境美化活動の一環として継続している法面約4,000㎡の除草を例年どうり今年も、5、7、9、11月と4回ボランティア活動として行った。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 1 花づくりの場を通じて、子供たちや町内の皆さんとの交流はもとより、「あそこに行けばいつもきれいなお花が見られる」という口コミが広がって見学者が増えてきた。通勤、通学者、ウォーキングの人たちも含めて、団地内の「憩いと癒しの空間」として評価されている。 2 安佐北区狩留家地区の町おこしグループから、駅前広場に花壇を造るので、知恵を貸して欲しいとの相談が来ているので、協力したいと考えている。 3 町の環境美化とともに共同作業を通じた会員相互の交流など地域起こし活動に少しでもお役に立っているのではないかと、これからは出来るだけ継続していきたいと考えている。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 1 植え付けに当たって、出来るだけ見栄えが良くなるように、花の配色、配列など個体の組み合わせを工夫している。 2 苗床には、ヨシズを張って、雨による苗の痛み、夏場の地温上昇、雑草などの抑制をはかった。 3 種から苗を育てる土地の確保が難しいため、開花直前の苗を購入して植え付けるのでいつも花壇には季節ごとの花が咲いた状態になっている。このため「いつ見てもきれいな花壇」ということが定着した。 4 会員に「自分たちの花壇」という意識が芽生えて、自主的に日常管理を行っている。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 1 会員の花づくりの知識の向上。 いつ、どんな花をどのように植えればよいのか。その管理は、どうするのか。現在は、手探りでやっている状態です。 会員相互のレベルアップを図りたいと思っている。 2 近隣に苗床になるような土地を確保したい。 種から苗を育てれば、活動費用の抑制になるし、知識の向上にもなると思う。 道路法面の平坦な部分の借用が出来ないか、広島市安佐北区役所に相談してみる。 3 中心となって活動している会員も70才後半になっているので、若い会員に引き継ぎたいが60才を超えても就労している人が多いので、これからの課題と考えている。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	畑ガールプロジェクト
②実施期間	2016 年 4 月 1 日 ～2017 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催 湯来里山会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 「畑ガールプロジェクト」:「畑ガール」とは、湯来町で農活動を進める女性たちを指す。「農活動」とは、家庭菜園などにみる楽しみで農をすることを意味する。農活動初心者から熟練者までを対象とし、スキルは問わない。「農を楽しむ」・「一人ではできないものはみんなでやろう」をコンセプトに、畑ガールを募集し、自分が栽培したい作物づくりに取り組む。指導は農業を熟知している地元の高齢者に担当してもらい、お互いのペースで進められるように湯来里山会がサポートする。 「活動場所」: 広島市佐伯区湯来町内にある耕作放棄地または、地元の方が自家消費用として小規模な耕作をしている畑の一部を使用。現在の活動地は、5 か所あり、湯来町の麦谷地区(3)、日入谷地区(1)にある畑と水田を借用している。平成 27 年度からは、新たに町内外の人々が出入りする湯来交流体験センターと共催事業として、センターにある農園の一部を使用する。人目に付く場所でも活動を進めることで、事業の周知を図るだけでなく、田舎には楽しいことがたくさんあるというイメージを効果的に発信していく。 【平成 28 年度実施内容】 ①イベントの開催（田植え・収穫体験・料理作り、もちつき、マルシェ）。集客は SNS や口コミ、チラシ、地域のミニコミ誌などに協力をしてもらい、幅広く呼び掛けた。 ②米作り、野菜作り、ハーブ園作り、加工品（畑ガールブランド）の製造を実施。開催場所は管理している田畑や、古民家 SATOYAMA を利用した。今年度は鳥獣対策を行ったため、収穫物の鳥獣被害がほとんどなく収穫まで経験することが出来た。 ③学生（広島修道大学）との交流：米作りの拠点である湯来町日入谷地区における米作りにおける習慣・文化を聞き取り調査から明らかにし、移住者が地域のことを理解して生活できるような資料を作成した。 ④スタッフ T シャツづくり

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ①地元における活動の浸透、②畑ガールブランドの立ち上げ、③別の地域で農業に取り組みたい人たちのよりどころになっているの3点が挙げられる。 ①地元における活動の浸透：田畑を畑ガールに貸して有効活用してほしいという声が出るようになった。借りた田畑の周辺に住む方々からは、「人が集うことでにぎわいがある嬉しい」、「若い世代と交流ができるのが楽しみだ」という声も聞かれるようになり地域ににぎわいを生み出す存在として浸透している。②畑ガールブランドの立ち上げ：マコモ茶、ゆずジャムパンといった商品をつくり、販売を始めることができた。モノを売ることによって畑ガールのコンセプトを広めることにつながっている。③別の地域で農業に取り組みたい人たちのよりどころ：田植えイベントでは別地域で無農薬米に挑戦する前に参加。技術指導まではいかないが、経験を積む場としても利用されるようになった。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 活動の目的は大きく①耕作放棄地の減少へ取り組む、②地元の農業経験のある高齢者と若者との他世代間交流をはかるという2点ある。①耕作放棄地の減少については、小さな歩みではあるが、少しずつ取り組んでいる。2017年春からは、メンバーが各人で湯来町内に田んぼを持つなどして農地の拡大を図っている。②技術指導をしてくれる方や、農地を貸してくれた方とは収穫物を譲渡しようことや、活動の報告などをするため、十分な交流が持てている。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 【課題】 ・3年間を通して、作物を育てることの経験や地域のルールなどを学ぶことができた。人員の確保も進んでおり、会としては安定してきている。そのため、今後の課題としてコンセプトを広く浸透させていくこと、さらにメンバーを増やしていくことが第一となる。これまでは、湯来地区や五日市や、廿日市、加計方面での宣伝活動が主流であったが、今後は可部やこころ団地方面といった湯来町までアクセス1時間圏内で若い世代が生活しているエリアにも範囲を広めていきたい。 ・スタンダードな野菜に加え、珍しい作物の栽培にもチャレンジしていきたい。 【追加活動】 ・立ち上げた商品ブランドは、まだ試験段階で大きな広がりにはつながっていない。来年度以降は、野菜の安定供給も目指しながら、湯来町以外のマルシェなどのイベント出店を定期的に行いコンセプトの拡散やメンバーの増加を目指していきたい。 ・5年後には畑ガールグループが既存のメンバーに加え、5グループほど増えるようにしていきたい。 ・農活動を通して、若者世代の移住も促進していきたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	子どもが主役の遊びで学ぶ防災ワークショップ
②実施期間	28年 12月 4日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 八幡東ほうれんそうネット、八幡東子ども防災フェア実行委員会、 八幡東小 PTA、
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 〔概要〕 ○子どもたちが、ゲームで遊びながら楽しく防災に必要な「技」や「知恵」を身につけることができる「家族連れでにぎわう新しいカタチの防災訓練」である。 ○参加の動機づけに、不要になったおもちゃの交換会を一緒に行い、ゲーム参加やお手伝いでもらったポイントを貯めて、他の子が持ってきたおもちゃを貰える工夫を取り入れた。 〔実施したゲーム等〕 ○小学校の体育館と校庭を会場として、次のような防災体験ゲームを行った。 体育館：対決バケツリレー、ジャッキアップゲーム、紙食器・スリッパづくり、 防災トランプ、応急手当ワークショップ、「毛布で担架」タイムトライアル、 水害紙芝居、消防服試着会、おもちゃの交換会 校 庭：水消火器的あてゲーム、消防車見学 〔会 場〕八幡東小学校（広島市佐伯区八幡東） 〔参加者〕地域住民 (子ども中心の若いファミリーとおじいちゃん・おばあちゃんの三世代)

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ・消火器の取扱い、毛布を用いた担架、自動車のジャッキを用いた救出方法などの災害時に役立つ実践的なヒントを学び、日頃から災害に備える「知識」や「技」を習得することができた。 ・新しく取り入れたゲームが小さい子にも楽しめると好評を得た。 ・子どもは参加によって防災に関心を持ち、親やおじいちゃん・おばあちゃん世代は子どもに付き添って参加することによって防災を意識するようになった。 ・この訓練を積み重ねることで、地域としての防災意識が醸成されてきた。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) (現在までの活動で成功した点、実施上特に工夫した点など) ・当日雨が降ったため、校庭で行う予定のバケツリレーを体育館で行うなど、その時の状況に応じ臨機応変に対応できた。 ・ジュニアボランティアによる、コーナーもあり子どもたちの自主性を養うことができた。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 〔課題〕 ・新しいボランティアの獲得。 ・ゲーム内容のマンネリ化。 〔展望〕 ・ゲームの内容を地域の課題にあったものへと進化しより内容の濃いものとしていきたい。 - 年々、新しいゲームを取り入れ、新陳代謝を図る。 ・この防災フェアで培った地域のまとまりを他のイベントでも活かし、地域がより活性化するようにしていきたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	平和公園のガイド依頼『全件受入れ』を目指して																																																																																																																																																																																																																																																																			
②実施期間	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日																																																																																																																																																																																																																																																																			
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関、団体など) 主催 観光アシスタントひろしま																																																																																																																																																																																																																																																																			
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 1. ガイド内容 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>ガイド述べ 人数</th> <th>ガイド組数</th> <th>ガイドした 人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">26年度</td> <td>縮景園</td> <td>909人</td> <td>1788組</td> <td>5107人</td> </tr> <tr> <td>平和公園・市内</td> <td>442人</td> <td>107件</td> <td>5088人</td> </tr> <tr> <td>広島とりっ歩</td> <td>8人</td> <td>4組</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">27年度</td> <td>縮景園</td> <td>856人</td> <td>1755組</td> <td>4991人</td> </tr> <tr> <td>平和公園・市内</td> <td>662人</td> <td>144件</td> <td>7128人</td> </tr> <tr> <td>広島とりっ歩</td> <td>4人(サポート7人 4組)</td> <td></td> <td>73人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">28年度</td> <td>縮景園</td> <td>945人</td> <td>1899組</td> <td>5307人</td> </tr> <tr> <td>平和公園・市内</td> <td>704人</td> <td>147件</td> <td>6997人</td> </tr> <tr> <td>広島とりっ歩</td> <td>6人(サポート8人 6組)</td> <td></td> <td>30人</td> </tr> </tbody> </table> 2. 平成27年度対28年度都道府県別平和公園を中心とした市内ガイド単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>都道府県</th> <th>28年</th> <th>27年</th> <th>28/27比較</th> <th>都道府県</th> <th>28年</th> <th>27年</th> <th>28/27比較</th> <th>都道府県</th> <th>28年</th> <th>27年</th> <th>28/27比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北海道</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>200%</td> <td>茨城</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0%</td> <td>長野</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>宮城</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>100%</td> <td>埼玉</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>67%</td> <td>三重</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>岩手</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0%</td> <td>千葉</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>25%</td> <td>岐阜</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>山形</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>100%</td> <td>東京</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>89%</td> <td>富山</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>秋田</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0%</td> <td>神奈川</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>333%</td> <td>京都</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>福島</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0%</td> <td>山梨</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0%</td> <td>滋賀</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>120%</td> </tr> <tr> <td>栃木</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>33%</td> <td>静岡</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>167%</td> <td>大阪</td> <td>16</td> <td>10</td> <td>160%</td> </tr> <tr> <td>群馬</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>100%</td> <td>愛知</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>150%</td> <td>奈良</td> <td>20</td> <td>15</td> <td>133%</td> </tr> <tr> <td>都道府県</td> <td>28年</td> <td>27年</td> <td>28/27比較</td> <td>都道府県</td> <td>28年</td> <td>27年</td> <td>28/27比較</td> <td>都道府県</td> <td>28年</td> <td>27年</td> <td>28/27比較</td> </tr> <tr> <td>兵庫</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>140%</td> <td>徳島</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0%</td> <td>長崎</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>和歌山</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0%</td> <td>香川</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>100%</td> <td>大分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>鳥取</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>33%</td> <td>高知</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>200%</td> <td>宮崎</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>島根</td> <td>3</td> <td>9</td> <td>33%</td> <td>愛媛</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0%</td> <td>鹿児島</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>岡山</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>100%</td> <td>福岡</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>150%</td> <td>沖縄</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>広島</td> <td>14</td> <td>22</td> <td>64%</td> <td>熊本</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0%</td> <td>合計</td> <td>144</td> <td>143</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>山口</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>100%</td> <td>佐賀</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>														ガイド述べ 人数	ガイド組数	ガイドした 人数	26年度	縮景園	909人	1788組	5107人	平和公園・市内	442人	107件	5088人	広島とりっ歩	8人	4組	30人	27年度	縮景園	856人	1755組	4991人	平和公園・市内	662人	144件	7128人	広島とりっ歩	4人(サポート7人 4組)		73人	28年度	縮景園	945人	1899組	5307人	平和公園・市内	704人	147件	6997人	広島とりっ歩	6人(サポート8人 6組)		30人	都道府県	28年	27年	28/27比較	都道府県	28年	27年	28/27比較	都道府県	28年	27年	28/27比較	北海道	4	2	200%	茨城	0	1	0%	長野	1	0	100%	宮城	1	0	100%	埼玉	2	3	67%	三重	3	0	100%	岩手	0	2	0%	千葉	1	4	25%	岐阜	0	0	0%	山形	1	1	100%	東京	16	18	89%	富山	5	7	71%	秋田	0	1	0%	神奈川	10	3	333%	京都	0	0	0%	福島	0	1	0%	山梨	0	2	0%	滋賀	12	10	120%	栃木	1	3	33%	静岡	5	3	167%	大阪	16	10	160%	群馬	1	0	100%	愛知	6	4	150%	奈良	20	15	133%	都道府県	28年	27年	28/27比較	都道府県	28年	27年	28/27比較	都道府県	28年	27年	28/27比較	兵庫	7	5	140%	徳島	0	1	0%	長崎	1	0	100%	和歌山	0	1	0%	香川	2	2	100%	大分	0	0	0%	鳥取	1	3	33%	高知	2	1	200%	宮崎	1	1	100%	島根	3	9	33%	愛媛	0	0	0%	鹿児島	1	3	33%	岡山	1	1	100%	福岡	3	2	150%	沖縄	0	1	0%	広島	14	22	64%	熊本	0	1	0%	合計	144	143	97%	山口	3	0	100%	佐賀	0	0	0%				
		ガイド述べ 人数	ガイド組数	ガイドした 人数																																																																																																																																																																																																																																																																
26年度	縮景園	909人	1788組	5107人																																																																																																																																																																																																																																																																
	平和公園・市内	442人	107件	5088人																																																																																																																																																																																																																																																																
	広島とりっ歩	8人	4組	30人																																																																																																																																																																																																																																																																
27年度	縮景園	856人	1755組	4991人																																																																																																																																																																																																																																																																
	平和公園・市内	662人	144件	7128人																																																																																																																																																																																																																																																																
	広島とりっ歩	4人(サポート7人 4組)		73人																																																																																																																																																																																																																																																																
28年度	縮景園	945人	1899組	5307人																																																																																																																																																																																																																																																																
	平和公園・市内	704人	147件	6997人																																																																																																																																																																																																																																																																
	広島とりっ歩	6人(サポート8人 6組)		30人																																																																																																																																																																																																																																																																
都道府県	28年	27年	28/27比較	都道府県	28年	27年	28/27比較	都道府県	28年	27年	28/27比較																																																																																																																																																																																																																																																									
北海道	4	2	200%	茨城	0	1	0%	長野	1	0	100%																																																																																																																																																																																																																																																									
宮城	1	0	100%	埼玉	2	3	67%	三重	3	0	100%																																																																																																																																																																																																																																																									
岩手	0	2	0%	千葉	1	4	25%	岐阜	0	0	0%																																																																																																																																																																																																																																																									
山形	1	1	100%	東京	16	18	89%	富山	5	7	71%																																																																																																																																																																																																																																																									
秋田	0	1	0%	神奈川	10	3	333%	京都	0	0	0%																																																																																																																																																																																																																																																									
福島	0	1	0%	山梨	0	2	0%	滋賀	12	10	120%																																																																																																																																																																																																																																																									
栃木	1	3	33%	静岡	5	3	167%	大阪	16	10	160%																																																																																																																																																																																																																																																									
群馬	1	0	100%	愛知	6	4	150%	奈良	20	15	133%																																																																																																																																																																																																																																																									
都道府県	28年	27年	28/27比較	都道府県	28年	27年	28/27比較	都道府県	28年	27年	28/27比較																																																																																																																																																																																																																																																									
兵庫	7	5	140%	徳島	0	1	0%	長崎	1	0	100%																																																																																																																																																																																																																																																									
和歌山	0	1	0%	香川	2	2	100%	大分	0	0	0%																																																																																																																																																																																																																																																									
鳥取	1	3	33%	高知	2	1	200%	宮崎	1	1	100%																																																																																																																																																																																																																																																									
島根	3	9	33%	愛媛	0	0	0%	鹿児島	1	3	33%																																																																																																																																																																																																																																																									
岡山	1	1	100%	福岡	3	2	150%	沖縄	0	1	0%																																																																																																																																																																																																																																																									
広島	14	22	64%	熊本	0	1	0%	合計	144	143	97%																																																																																																																																																																																																																																																									
山口	3	0	100%	佐賀	0	0	0%																																																																																																																																																																																																																																																													

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 1. 我々のガイドを通して、修学旅行で来た児童・生徒に、「平和公園・原爆ドーム・原爆資料館」を見て、聞いて、触って「原爆は怖いのだ」「戦争はしてはいけないのだ」「平和は本当に大切なのだ」と実感してもらった。その気持ちを後輩に継承してもらう事が平和教育であり、平和の尊さを考える機会になったと感じた。 2. 「縮景園」「広島城」は、広島市の中心部に位置し立地条件の良い場所あると言う認識を県外の人に与える事が出来た。又、歴史的な重要性、庭園の素晴らしさ、動植物の多様性等も観光客にアピール出来ている。 3. 今年度から広島市の要請に応え「広島とりっ歩」の比治山散策に力を入れてきた。その為に、ガイド者研修を行い比治山散策の依頼が増えてきた。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ・平和公園は、Hm2助成金で「拡声器」を7台購入し、ガイド1人で案内出来る「児童・生徒数」を10人から15人に増やしたが、依頼件数が増えておりお断り件数が今年度も発生した。 ・拡声器を使用した場合、声が良く聞こえる為、周りの迷惑になる事もあるのでボリューム調整が必要となった。これは今後の課題となった。 ・会員増加の為、今年度は養成講座を2回行った。28年3月と9月の養成講座で24人の新規加入者があったが退会者も4人あり、結果20人増となった。早く戦力になる様研修を行っていく。 ・広島城、比治山については、ガイド養成研修を行い、ガイド出来る者が少しずつ増え、ガイド依頼に対応出来る様になった。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 1. Hm2に応募し、二次審査時に委員長から、Hm2は「各団体が将来自立する為の手助けをするものです」言われた言葉が今でも脳裏に浮かびます。 会を運営する為には資金が重要です。 Hm2の委員長の言葉から、資金捻出方法を考え、ガイド依頼者よりガイド1人当たり「500円」徴収し、会へ納付して資金とする事にしました。(総会で了承を得た)。28年度分は昨年から予約が既に入っていましたが28年度の目標は何とかクリアできた。29年度は全てのガイドが対象となる為資金的に自立できる目途が立ちました。 Hm2のアドバイスがなければ、従来通りの活動に終わっていると思います。これもHm2のおかげと深く感謝しています。 2. ・拡声器導入で、当初、ガイド1人で20人を案内していましたが、人数が多すぎて移動時間が長くなり、説明箇所を少なくするケースが生じました。その為、20人から15人以下でガイドを行っています。当初の見込み違いが発生しましたが、ガイド要員(平和公園ガイド会員の増加)の確保が急務と思いましたが、29年3月の養成講座で27人入会し内、平和公園を含む広域ガイド者が「18名」増えましたので希望が持てました。 3. 今後は、広島城・比治山・平和大通り・等の専門ガイド養成を行いたい。 その結果、下記ルートを設定しガイド案内の幅を広げ広島をアピールしたい ①広島城から縮景園ルート ②比治山電停から現代美術館までの比治山ルート ③袋町小学校資料館からアンデルセンの被災建物・旧日銀跡・頼山陽資料館 ④本川小学校資料館から平和公園南側ルート

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	学びを深めるフリースクール活動
②実施期間	2016年 4月 1日 ～ 2017年 3月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 特定非営利活動法人フリースクール木のねっこ
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ・ 不登校またはフリースクールに行きたいこども対象（概ね6歳～15歳まで） ・ 自身が育ち個性豊かに表現できる環境づくり、生きる力を養い自律し社会での自立を目指す ・ 月～金曜（週5日） ・ 広島市安佐北区周辺で活動。現活動拠点は久地北・太田川げんき村憩いの館。学びを深める場として、地域住民から空家提供（はんぞうの家）。宿泊可能施設（ログ／北広島町、はそよ村） ・ 4月より通信制高校サポート校である木のねっこ高等学院開校（安佐北区亀山） ・ 自然、アート、農（田畑）、食育体験、学習支援。地域伝統行事の手伝い、企画、実施。地域活性化を異世代で支援。 ・ 子ども主体の学びを支援。子どもの調査・検索ツールとしてipadを活用。 ・ 社会見学・遠足・キャンプを実施し、見聞を広め経験を深める機会を作る ・ 専門講師招致（アート、木工など）学生研修受け入れ、活動報告、遠足・旅行

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ・ 学校以外の学びの場の選択肢の一つ、貴重な全日制のフリースクールとしてパイオニア的存在。 →平日フリースクールでのこどもたちの変化と成長 Aさん：ログの毎週の宿泊で家事が習慣となり、自宅でも積極的に自分の役割として家事をするようになった。 Bくん：自分の気持ちを行動だけでなく言葉で表現し、人に伝えられるようになった。 Cさん：不登校からフリースクールという新しい自分の居場所ができたことで表情明るくなった。 ・ フリースクールと活動拠点をお借りしている久地北・太田川げんき村が、それぞれ自走できる団体として自立できるよう、お互いを応援、協力。 →地域イベントや行事、草刈りの手伝い。木のねっこはげんき村の支援者として全面的に協力。 ・ 地域に根差したフリースクールモデル →地域の古民家を借り修繕。子ども図書館、子どもの学びの環境を充実させ、受け入れ拡大。 高等学院の開校に向け、さらにつながりのある地域を拡大。 ・ 広島市で行うフリースクール活動を他の地域へアピール →他のフリースクールや幼稚園などのスタッフ見学受け入れ、交流。合同キャンプ交流など ・ 広島市の就労支援施設へ出張カウンセリング →フリースクール生と障害者の交流会実施。福祉と教育の連携。
-------	--

⑥ 目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 【目的達成度・成功した点】 ・学校以外の学びの場の選択肢 (平日フリースクール事業) →過敏さや鈍さ、集団での不具合を持ち合わせたこどもに、少人数・個別の対応、観察、アセスメントに基づく対応、環境設定をした。その結果、こどもの自律を促進し、こどもは自分のスケジュール行動管理ができるようになった。 ・木のねっこログオープン 宿泊施設で家事や暮らしをテーマに活動。 →こども主体の学びの環境が、より広がる。自分の居場所、役割を自覚。 ・遠足、講師招致；農業体験、美術館、スケート、就労支援施設、木育、スキー →こどもに希望を聞き、計画して半月以内に実施したため、やりたい気持ちが強く意欲的、能動的に学び、すぐ身につけ吸収しやすかった。他団体との交流を深めることができた。 ・受け入れ生徒の拡大 →木のねっこ高等学院開校にあたり、安佐北区可部地区周辺の生徒も登校しやすくなった。 ・ふえす。開催、フリーマーケット出店 →売ること、こどもの積極性や自信をつけることができ、ご近所へのフリースクール周知活動になった。 ・キャンプの実施 →子どもたちの生きる力を育み、キャンプごとの目的を達成し、新たな課題へとつながる活動となった。 【考慮したい点】 ・地域とつながる上で、コミュニケーションを十分にとり、信頼を得ていく。地道に活動を継続。 ・ボランティアスタッフ
⑦ 今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 【課題】 ・地域を応援 →フリースクール活動と並行し、長い目で地域を見守っていく。自由な中でお互いに自立し、その上で依存しあえる関係を目指す。ログや学院地域との連携。 ・学校以外の学びの選択肢 →学校にもどすための場所ではなく、学びの選択肢として学校だけでなくフリースクール、家庭などで学びたいこどもの居場所として存在する。その周知のため、地域の団体、他フリースクールや福祉、他機関と関わる。 【追加活動】 ・今後、スタッフやボランティアを増やし、月～木(週4回)とキャンプやフリーマーケット出店などのフリースクール活動は継続実施。スクール生募集し増員。 ・木のねっこ高等学院新入生の募集。ほか、高等学院プレ生(小中学生)も受け入れ、学びの環境を整え支援する。 ・広報活動を継続、さらに広報場所を増やす →SNS、各機関、団体、つながりある人への広報。ホームページの改良 ・福祉活動、シェアハウス →高校卒業後の就職に目を向け支援環境を整える。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	中国帰国者の力を生かして「ヒロシマの心」を広く伝えよう
②実施期間	2016 年 4 月 1 日 ～ 2017 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 特定非営利活動法人 虹橋の会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 実施方法： 1、10 月 23 日(日)、広島市が主催した「重慶の日」に参加し、中国帰国者と重慶市の中学生たちが作った折り鶴と和紙ちぎり絵を展示し、和紙ちぎり絵「チューリップ」を体験コーナーで来場の皆さんと一緒に体験した。 2、10 月 26 日～30 日、当会が主催した「第 3 回日中和紙ちぎり絵展―広島市・重慶市友好都市締結 30 周年記念」には、中国帰国者の 4 才～75 才まで 40 点ほどの作品を出品し、そして、平日作った折り鶴を展示し、中国の来訪者へプレゼントした。 3、中国帰国者支援交流センター及び地域小学校(基町小学校・廿日市市地御前小学校)と連携して、和紙ちぎり絵を体験し展示品を作った。 4、普段習った日本語をまとめ、展示会期間中、入場者の前で堂々で発表し、大人と子ども武術・太極拳も披露した。 5、大人向けの日本語教室、予定通りに運営してきた。帰国者たちは歌が好きで、先生が日本語を教える際には、いつも先に日本語の歌(北国の春・和紙の四季の歌・他)を歌わせて、また日本語の勉強に入る。日本語の授業は楽しかった。 6、計画した「折り鶴・広島 3 部作」の創作ができて、いつもお世話になってきた方々にプレゼントしただけでなく、様々な折り鶴の作成ができるように、ほかの会の先生を頼んで教えてもらった。 活動地域・会場： 活動地域：市内中区・西白島・基町・廿日市市を中心として 会場：広島市中央公民館・広島市立基町小学校・廿日市市地御前公民館・ほのぼの基町事務所・広島 JMS アステールプラザ・広島県民文化センター他 対象者：中国帰国者 1 世～4 世 日本人市民、小学生

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 成果・効果 1、「第3回日中和紙ちぎり絵展—広島市・重慶市友好都市締結30周年記念」展示会には、日本人・中国人・中国帰国者3者の出品者数、展示品点数、いつもより良かった。このような活動を通じて、和紙ちぎり絵を国内外への伝承にも役立て、地域の住民たちと互いの親睦をもっと進めたと感じた。 2、今回の展示会には、広島市長松井一實様よりメッセージをいただき、会の今後の発展には、励みになった。 3、展示会期間中、中国四川師範大学の楊副院長が来られて、今後の両方友好と文化交流伝承について検討し、もっと発展するよう意見が一致になった。 4、親子が参加した活動で、親同士の情報交換、子どもたちの友情も促進した。 5、帰国者達は、平日習った日本語と歌などを初めての発表を通じて、日本語をもっと習い、地域日本人住民と会話や仲良く生活環境を作ろうとの意欲を表れた。 6、当会の会員と中国の中学生たちが作った折り鶴を共に展示することにより、両国民が平和祈願・原爆絶滅の心を繋がった。 7、「被爆都市」・「平和都市」広島を象徴する「折り鶴・広島3部作」をプレゼントしたことで、「ヒロシマの心」を伝えたと感じた。 対象者等の反響 1、日中和紙ちぎり絵展のアンケート内容：展示会の出品者は、自分たちで作る作品を通じて日中交流をするのは素晴らしいことです。今後、毎年日中がお互いを訪問し、日中共同で大きな作品を製作してはどうでしょうか。今後も益々にご活躍を期待しご発展を祈っています 2、中国帰国者は、もっと日本語を習って、発表させてくれるチャンスが増えてほしい。 3、小学校から、また教えに来てくださいね！との声が伝えてきた。 4、もっと沢山の折り鶴を作って、各国からの来賓にプレゼントして、「ヒロシマの心」をもっと広めようとの声も聞こえてきた。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 1、当初の事業計画に沿って実施したもので、地域親睦や生活しやすい環境づくり及び異文化交流・伝承にはある程度役になったと思う。 2、日本語の発表は初めてで、少しでも緊張感があったが、でも勇気出して大声で発表したことが出来て、良かった、大成功だね、と評判してくれた。 3、「第3回日中和紙ちぎり絵展—広島市・重慶市友好都市締結30周年記念」展示会の開催は、予定より良かった。出品者数・作品点数・及び展示場の配置など、特に日中両国の人たちが作った折り鶴の展示は、今回は初めてで、飾りも種類もよかった。 4、展示品を搬入する前、国内外から送ってくれた506点の展示品を展示場に入れるように、作品のサイズと展示場壁の長さをよく計算して準備しておいた。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 1、今年は、虹橋の会は設立15周年になる際に、広島平和創造基金より「第19回国際交流奨励賞(2016年度)」を受賞させていただいた。これまで支援、協力して下さる大勢の団体や個人の方々のご期待に背かないように、既定の目標に向けて、もっと頑張っていこうと頑張る。 2、日本語の習う内容は、できるだけ帰国者のレベルに合うような教材を作る。 3、「折り鶴・広島3部作」をもっと作って、プレゼントや販売できれば、会の活動趣旨を知ってもらい、会の運営費になる。 4、8月6日、広島被爆72年の際に、皆が作った「折り鶴・広島3部作」を来賓にプレゼントして、「ヒロシマの心」を伝える。 5、4月中旬ごろから約2週間、袋町市民交流プラザ南棟1階ロビーにて、会の「折り鶴ミニ展示」を行う予定になる。 6、地域の小学校・児童館・ほのぼの基町と連携して、会の中国帰国者会員と同じように、月1回ほど、ミニ色紙や葉書サイズの和紙ちぎり絵(他グループ画像参考)をチャレンジする予定、3月は「あり・蟻」を実施した。4月は「いぬ・犬」を計画している。 7、今年の秋頃、中国へ和紙ちぎり絵を広めに計画している。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	市外から訪れる障害者の介助/鯉城の会
②実施期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 鯉城の会、広島市社会福祉協議会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ・広島市社協ボランティア情報センターの情報をもとに、2人1組で障害者を介助する。 ・会員28名中5名が観光アシスタントひろしまの会員。他に7名が同養成講座を受講し、観光案内を実施。・活動地域は広島市及び宮島を中心とした場所及び催事の会場。 ・活動内容は、指定場所から目的地までの間・食事の案内や介助・案内(観光案内を含む) ・対象者は主に市外から訪れる身体障害者と視覚障害者の個人・グループ・団体等。 ・定例会は第3火曜日、場所は市社会福祉センター(市総合福祉センターへ移転)で、活動実績報告＝実例をもとに質疑応答・対策を検討。また、計画の検討実施。 ・勉強会＝障害者と同じ目線で体験・サポートするために。障害者の声を聞く会(障害別に)⇒大半の会員は、高齢者で初めて介助活動に参加した人の集団であるため、繰り返しの訓練・学習が必要である。本年度は予算の関係でDVDの視聴。 ・障害者対象のボランティアグループとコラボしての体験会参加。千田町感謝祭のイベント・市社協利用連の学習会等に参加。 ・3月には「市外から訪れる障害者への介助ボランティア講座」を市社協ボランティア情報センター、視覚障害者・車いすユーザー各4名を講師としての支援を受けて実施。一般15名を含め45名で開催。障害者の方達の明るい笑顔と楽しい会話に参加者は感動を受けられた様子で、今後は障害者に気軽に声をかけたいとの感想も戴きました。 ・この講座案内は中国新聞、NHKに依頼し報道され、県社協、市社協、区社協、合人社ウエンディひと・まちプラザの協力を戴き配布。広島市老人大学、大学院、大学院OB会の講座前に合計1,200名の学生の前で案内しチラシを配布。 ・京都から視覚障害者3名、特に宮島の干潟で大鳥居を感触に興奮される。 ・「安佐南区身体障害者連合会福祉大会」にて講演、「パネルディスカッション・広島県のボランティアの実態」、利用連学習会パネリストとして参加。 ・案内リーフレットは両面カラー刷りで、活動の趣旨、活動報告等を掲載し15,000部作成、また視覚障害者用に点字版を250部作成(視覚障害者から感謝の意を表される)。市社協移転等により制作完了が3月中旬になり、リーフレット等の発送が3月末になる。⇒本年度の介助活動の実績とならず。 ・支援活動は年間12回、延人員72名が参加しました。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。又、対象者等の反響など) ・中国新聞に掲載され、反響は大きく広島県障害者支援課の担当監が介助講座に参加され、講座の雰囲気、リーフレット等により「鯉城の会」を認識戴き「あいサポート」への登録を依頼され、また4月以降に障害者支援課、観光課、たう(東京)等に「鯉城の会」の紹介及びリーフレットの設置に協力を約定。 ・介助講座は、自己紹介から始まり参加者全員の発言に明るく・楽しい雰囲気の中で進行、座学は時間不足の様相でした。実技の後の反省会も時間オーバーで盛り上がる。 ・介助講座のアンケートは添付しました。 ・フラワーフェスティバル・8/6 平和祈念式典の介助では会員へ指名される方も出ています。マーガレットコンサートでの障害者介助は毎年のことではありますが、多くの感謝と喜びの声が聞かれます。
⑥ 目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ・会の紹介リーフレットは両面カラー刷りで15,000部作成。 ・視覚障害者のために点字印刷の案内書も作成(会員の提案により)。点字及び印刷はボランティア情報センター及び六点会の個人ボランティアの方の全面協力で作成。 ・全国47都道府県・19政令指定都市・県内13市(広島市以外)の社会福祉協議会へカラーリーフレット及び点字版を広島市社協ボランティア情報センターより発送頂く(費用も市社協負担。)市社協ボランティア情報センターのご協力に感謝。 ・市社協の広島駅前への移転が12月になったためリーフレットの完成が遅れ(住所・電話番号の確定等で)配布活動が年度を越えて実施。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ・リーフレットの配布先 1. 広島市関係(観光課・障害福祉課等)市社協常務理事に紹介を依頼済み ⇒ 新年度に同行配布。市社協との強力な相互扶助関係を継続する。 2. 広島県庁関係(観光課・障害者支援課・東京事務所・たう)等、自立支援担当監に紹介依頼済み⇒ 新年度に同行配布。「あいサポート」運動を支援する。 3. 障害者団体への周知⇒広島市視覚障害者情報支援センターへリーフレット情報をメール送信済み⇒他県の情報支援センターへ転送を依頼。 新しい課題 ⇒他の障害者団体へのアタックし、リーフレット・情報の提供により横展開を依頼する。 ・追加リーフレットの作成⇒マスコミ・市社協の協力態勢により、早い時期に在庫切れが生ずる可能性あり⇒次なる対策を検討の必要あり。 ・新メンバーの獲得⇒今回参加の方の情報により市内の大学のボランティアサークルの会員を対象に介助講習会の開催をする。 ⇒勧誘は、大学を直接訪問⇒ルート開拓。 ⇒経費を如何に捻出するか・・・助成金の利用 ⇒助成金調査

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	広島湾岸トレイルの広報、開発、維持管理、運営
②実施期間	2016年4月1日～2017年3月16日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) (主催) 広島湾岸トレイル協議会、(後援) 日本ロングトレイル協会、(後援) 広島県、広島市、呉市、廿日市市、江田島市、府中町、海田町、北広島町、坂町、熊野町、広島観光コンベンションビューロー、(協賛) 好日山荘、モンベル他
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ・2016年4月：広島湾岸トレイル協議会は17団体が参加して正式に発足した ・2016年5月：木ノ宗山整備に2団体5人、6月：木ノ宗山整備に5団体12人、大庭山～神山峠整備に3団体20人、8月：二艘木集落跡周辺整備に1団体2人、9月：愛宕神周辺整備に1団体2人が参加した。 ・2016年5月：海外トレイル体験報告会に50人が参加して開催した。 ・2016年5月：2015年9月から始めた「行政、山団体」向けのトレイル体験会は、広島、宮島、瀬戸コース(247.9km)を26回開催し592人が参加して無事完了した。 ・2016年7月：エキキタコース(広島駅～木ノ宗山/15.7km)の踏査&整備が完了し、2年3ヶ月/82回の活動に延べ624人が参加して開発した広島湾岸トレイル(289.1m：広島、宮島、瀬戸、エキミナミ、エキキタ/5コース)は全通した。 ・2016年7月：トレイルを巡回し「踏査&整備」を始めた。これまで19回(nol～17)実施に延べ166人が参加し、広島、宮島コースを終え、3月4日より瀬戸コースに入った(3/4、18)。踏査&整備開始から満1年経過の8月頃には2順目に入る予定。 ・2016年9月：一般市民向けのトレイル体験会(29回/2018年3月完了予定)を始めた。3/11現在、9回開催し、一般延べ323人＋スタッフ延べ98人の合計421人が参加した<順延分：3/18、3/25、4/15開催予定>。 ・2017年10月：HWT：CDmap-2016<A4コース図142枚収録>が完成した。 ・2016年11月：可部連山トレイルラン in 安佐北に、16人がスタッフ参加した。 ・2016年11月：安全登山推進講座を可部公民館、2月に草津公民館で開催し、一般受講者64人(定員60人)、講師延べ19人の総計83人が参加して開催した<3/26ー熊野公民館、4/23ー二葉公民館開講>。安全登山推進向上に努めた。 ・2017年11月：広島湾岸トレイル説明会(会場：好日山荘)が始めた。11月～3月と毎月(5回)開催し、毎回定員の20人前後が参加した(月例会：毎月第2水曜日)。 ■HWT：CDmap-2016 □広島コース：呉市天応～烏帽子岩山～絵下山～白木山～鈴ヶ峰～八幡東/129.5km □宮島コース：八幡東～極楽寺山～折敷畑山～駒ヶ林～弥山～宮島棧橋/41.3km □瀬戸コース：呉市天応～灰ヶ峰～休山～陀峯山～古鷹山～クマン岳～切串港/77.1km □エキミナミコース：広島駅～平和記念公園～元宇品～安芸小富士～似島港/22.5km □エキミナミコース：広島駅～二葉山～牛田山～松笠山～二ヶ城山～木ノ宗山/15.7km

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ・広島湾岸トレイル協議会発足以降に7団体が加入し、24団体(1,490人)となり、個人参加も目立ち始め、複数の団体が入会を検討している。問合せが増加した。 ・愛知の大学(ワンダーフォーゲル部)が、トレイルの踏破を目指し訪れた。 ・一般市民からのトレイルの整備活動に参加希望の問い合わせが増加した。 ・メディアに取り上げられる事が増えて、認知度、知名度が飛躍的に向上した。 ・国交省の「広島湾再生計画」での連携を要請された。 ・日本ロングトレイル協会の支援団体である(公財)安藤スポーツ・食品文化振興財団からHWTのスマホ用アプリを無料で作成し、無料でダウンロード出来るようにするとの申し入れを受けた。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ・全12回トレイル体験会:1、2月の悪天候等で度々順延を余儀なくされたが、開催回数9回/参加者数323人となった。荒天順年分の1回は次年度の4月に順延した<開催順延分1/11→3/18、1/28→3/25、:2/11-no10→4/15>。 ・海外トレイル体験会:定員参加者は50人(定員50人)が参加した。 ・安全登山推進講座:定員60人/2回で64人が受講した。会場の都合で4/23-二葉公民館された事から開講目標回数を1回下回った<3/26-熊野公民館>。 ・巡回-踏査&整備活動:19回(no1~17)に延べ95団体/延べ166人が参加した。3/4、18を残すが、7回上回る活動で、コースはより安全に快適となった<3/4、18及び合同、個別整備含まず>。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ・多くのイベントを開催し、可能な限りのイベント参加に協力して、認知度upに努めたが、努めれば務めるほど会員の出費は嵩む。負担増から活動が停滞する恐れもある事から、これらへの支援補助策が今後とも最大の課題。 ・289.1kmのトレイルに統一した案内板、道標を立てるには、コース上の4市5町、即ち、広島市、呉市、廿日市市、府中町、海田町、北広島町、坂町、熊野町と県、国の連携した施策が必要不可欠。この活動に更なる努力を要する。 ・データ&ガイドブック:一般の人がこの本一冊でトレイルを歩けるとした前例のない、類を見ない一冊となるが、多額な資金を要する。 ・維持管理、整備計画:289.1kmのコースを維持管理の為の広島湾岸トレイル協議会の更なる会員(団体、特に個人)の参加を広く深く厚く求めなければならない。 ・広報計画:トレイルを活用することが地域活性化、経済活性化に繋がり、活性化する事で多くの人がトレイルを歩けば、トレイルの維持管理は容易となる。その為にはトレイルの存在を周知が必要不可欠。ネット(ウェブ)を使い、説明会や各種のトレイル体験会をより多く開催する事で「口コミ」の伝搬を図る等を重点的に展開しなければならない。 ・広島湾岸トレイルをブランド化(広島湾岸トレイルに次いで、ロゴマーク通商標登録申請予定)して、各種用品を開発/販売により自立への道の一助としたい。 ・ウルトラトレイルランニングレース国際大会inHWTを開催出来るよう活動したい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	集会所グリーン・エコライフ(グリーンカーテン＆子どもエコ教室)								
②実施期間	2016年 5月 7日 ~ 2016年 10月 26日								
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 美鈴が丘西集会所 管理委員会 美鈴が丘西新区町内会 子育て育成部								
④内 容	グリーンカーテン&子どもエコ教室実施計画・結果								
	スケジュール	実 施 内 容 (計画⇒結果)	評 価						
	H27・12月	☐ 意見交換交流会 ⇒ 12/8 (25名)・課題整理	グリーンカーテン						
	H28・4月	☐ 実施計画作成・決定⇒3月作成・4/15会議決定	計画⇒○						
	5月	☐ 土壌整備・植え替え ⇒ 5/7 (35名) ネット⇒5/28 (15名)	実施⇒○						
	7~8月	☐ 子どもエコ教室 ⇒ 8回・参加者286名 (計画比143%)	エコ教室						
	10月	☐ ネット撤去・種取り ⇒ 10/26 (20名)	計画⇒○						
	12月	☐ 意見交換・反省会 ⇒ 12/6 (出席者26名)	実施⇒◎						
	※水遣り当番：半月ごと各町内会持ち回り(5丁目⇒4⇒3⇒2)								
	参画人数 延べ740名 <夏休み子どもエコ教室> ☐ 実施時間：AM8:00~11:00 ☐ スケジュール：当番決定⇒読書タイム、感想タイム、自習タイム×3回 ☐ 休憩を入れ終了後掃除整頓し解散する。 ☐ 役割：号令係、挨拶係、記録係、マナー係、整頓係の5つの係り 平成28年度夏休み子どもエコ教室参加者(学年別)								
実施日	1年	2年	3年	4年	5年	6年	年中長	中学	計
7/22	9	5	17	5	12	11	1	0	60
7/25	9	4	15	7	7	10	1	0	53
7/27	6	4	12	6	10	3	1	1	43
7/29	3	4	7	3	9	8	1	0	35
8/3	7	5	3	3	6	3	0	0	27
8/5	5	4	5	3	4	8	1	1	31
8/17	2	5	4	3	1	4	1	0	20
8/19	3	3	2	2	3	2	0	2	17
計	44	34	65	32	52	49	6	4	286
H27	31	44	8	42	22	54	4	0	205

⑤実施効果	グリーンカーテン&子どもエコ教室の評価		
	対象者	評価項目	評価した内容
	子 供	グリーンカーテン	エアコン・扇風機が無くてもとても涼しかったので読書や自主学習に集中でき勉強が進みました。(グリーンカーテン) 温度計を使い観察涼しさも体感GK効果温度差も数値で確認できた。
		エコ教室	異学年のお友達と一緒に集団学習で集中力が高まり学習がとても進んだし楽しかった。地域の方お兄ちゃんお姉ちゃんに教えてもらいしっかりできうれしかった。学校の先生にも教えて頂き助かった。
		要 望	来年もエコ教室やってほしい。続けてほしい。参加したい。
	保護者	全 体	異学年や友達同士で教えたり教わったりの集団学習スタイルが良い。夏休み8時からの学習は生活リズムの良い1日、午前はエコ教室涼しい環境で子ども達が役割を決め自ら学ぶスタイルは責任意識も身につくと思います。地域の方に感謝で一杯です。
⑥ 目的の達成状況	広島市緑のカーテンコンクール団体の部 最優秀賞受賞の評価(コメント) ☐ 緑のカーテンと呼ぶに相応しい素晴らしい概観を地域一体となった取り組みで実現されている。この取り組みと連動したこどもの体験学習会の開催など地域の活性化に大きく貢献している様子が窺える。 ☐ 壁面全体に均整のとれた緑のカーテンが形成されており素晴らしい。 ☐ 長さが38mと立派。エコ教室などへの参加者も多く、この取り組みは高く評価できる。 ☐ 資料から、熱意と地域の広がりを強く感じる。		
⑦ 今後の課題・展望	グリーンカーテン&エコ教室 <意見交換会・課題> ☐ エコ教室(子ども達による異学年の自習学習スタイル)の良さが西街区以外の近接町内の児童に広がり、サポート体制を見直す必要がある。 ☐ サポートする役員(町内会、子ども育成部)の数やボリュームに偏りがあり今後は役員外のボランティア要員も確保する必要がある。 ☐ 人に優しい集会所づくりに沿った環境づくりや世代交流の子ども達との場づくりにはこの活動を今後とも継続し深化する必要がある。 ☐ エコ教室の実施回数や実施内容、マナーについて改善すべき点が指摘改善すべき点は次回に対処したい。		

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	子育てと健康と地域をつなぐ活動
②実施期間	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 笑顔つながり隊 (安芸区社協・阿戸矢野包括支援センター・矢野公民館・矢野福祉センター 矢野町内会・学校給食栄養士OB食育グループぱくぱく)
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ①野菜作りを通じて親と子の食育活動、管理栄養士による食生活指導 ②子育て、保育、健康関連の学習、相互交流の機会創出 ③地域密着型の子育て支援活動、イベント開催 ④多世代住民との共助関係をつくるための拠点の設置 ※行事内容については別紙、添付資料あり。 ○活動地域や会場 ・安芸区矢野にある空き家を拠点にし、地域の居場所としての『矢野の家』 ・矢野公民館 ○対象者 ・近隣に住む乳幼児、小学児童親子 ・多世代に渡る地域住民 ・会報誌、ブログ等を見た矢野近郊の方 ○広報 ・会報紙『わたしらしさ』を毎月発行し、イベントを告知 ・公民館・安芸区社協・阿戸矢野包括支援センター・福祉センター・JR 矢野駅への会報 掲示、配布 ・ブログにて活動内容紹介・イベント案内 ・地元の連合町内会へ配布依頼し、回覧板・掲示板にて告知

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ・来訪者同士で子育ての不安や悩みを話し合う場をつくることで、保育士や管理栄養士などの専門職から助言や相談対応があり、負担軽減と相互に支え合う場や関係作りができた。 ・健康づくりなどのイベントや対話の場づくりを通じて、多世代交流が進んだ。 ・空き家活用により、近隣住民の参画と協力が得られ、自らボランティアとしての参加の場を求めて来られるなど、住民主体のきっかけづくりができた。
⑥ 目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。又、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点等) ○目的達成 ・年間行事計画に沿って運営できた。 ・年間利用者数(H28.8～H29.3)1,137人、月間平均利用者数162人、来訪者が増加している。 ○成功した点 ・相互に語り合える居場所があることで、来訪者同士のネットワーク作り、支え合いが創出できた。 ・地域機関との連携による企画、交流行事を行なったことで認知度が上がった。 ・他団体との交流行事で協働した活動が拡がり、内容の充実につながった。 ○失敗点 ・拠点場所がわかりにくく、案内も不十分であった為、来訪時のサポートが必要。 ・駐車設備がなく、近隣の駐車場2台を賃貸しているが、行事の時等は駐車場が不十分な為、行事参加を断念する方もおられた。 ・多世代対象としながら、子ども中心の行事が多くなるなど、世代のバランスを十分考慮できず高齢者の参加が遠のいた。 ・みんながせっかく植えた野菜が動物(ハクビシン・鳥・虫)の被害にあった。 ○工夫点 ・イベント開催時、来訪時に参加者に動いてもらえる体制づくり ・自分の役割があり、家のように過ごせる関係性、場所づくり ・賛同協力者自らが企画し、地域へ発信できるしくみづくり について工夫した。
⑦ 今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ○課題 ・運営費確保策 →参加費、寄付金などの収入の拡大をめざしたい ・場所の案内 →看板を増やす。詳細地図をていねいに掲示する協力を得たい ・駐車場の確保 →台数確保のため、利用者同士での費用負担や収入増を図りたい ・畑づくりの管理者確保→年間を通してアドバイスをもらい野菜の収穫に向けて管理して頂ける方を募集したい ○今後追加したい活動 ・ふれあい農園を充実させ子どもや地域住民が利用できる食堂運営をめざす (畑を充実させ野菜づくりを行うと共に、フードバンク、地域機関の活動グループとの連携をもとに行なうことを検討したい) ・一時保育…保育、教育の有資格者、ボランティアの協力を得て、試験的に行なうことから検討したい ○展望 今後は地域行事、取り組みに積極的に参加することで他機関との連携を強化し、大切な未来を担う子ども達を地域で育てる為、地域を丸ごと支援し合うスタイルの取り組みを拡充したいと考えています。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	リボーン安芸飯室駅～道の駅として
②実施期間	平成27年6月～現在（※駅舎カフェ・各種講座・婚活イベント等の開催） 平成28年7月3日～平成28年8月8日（※工事期間）
③実施主体	（主催、共催、後援、連携した機関・団体など） プラットフォーム安芸飯室運営委員会
④内 容	（実施方法、活動地域や会場、対象者など） 平成27年6月に、旧安芸飯室駅の管理を広島市から許可されて以来、フリーマーケット・駅舎カフェ・英会話教室などの講座・婚活イベントなどを順次立ち上げ、平成28年11月からは、毎日曜日に実施している。フリーマーケットでは、近隣の農家・企業・個人など34団体からの委託販売も行い、平成28年12月末現在で、売り上げ3,973,091円の地域経済を動かしている。場所は、重要国道191号線に面し、一級河川太田川を眼下にする地の利を得て、多くの人々が集まる道の駅として新聞・TVにも取り上げられ賑わいを生んでいる。 しかし、活動の場である駅舎建物は、昭和11年に建築されたもので老朽化が激しく、別棟トイレも平成15年の廃線時に撤去されており平成27年の管理を始めるに際して、とりあえず仮設のトイレ（電話ボックス型）を設置して対応したが、夏場の悪臭や大量の蚊が発生し不衛生である上、高齢者の使用には不便な状況であったので、このたび簡易水洗トイレを設置することとした。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) フリーマーケット・駅舎カフェ・英会話教室などの講座・婚活イベント・旧駅舎やプラットホーム・線路の見学などで多い日には100人を超える集客力のある場所に簡易水洗トイレができたことで快適に買い物や食事・散策ができるようになった。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) トイレ設備としては100%の達成状況である。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 「プラットホーム安芸飯室(道の駅)」の運営する側も来客する側も互いの交流を発展させていきたい。例えば、近隣のまちづくりグループ(久地のげんき村や小河内のOプロジェクトなど)との連携した活動を実施する。 開業当初から懸案であったグランドゴルフ場開設の目途がたち、本年4月から駅前広場で本格8コースのプレイが楽しめるようになる。駅舎カフェやフリーマーケットとの相乗効果も期待できる。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	地域のお宝！被服支廠の価値共有プロジェクト
②実施期間	2016年5月16日 ～ 2017年3月31日
③実施主体	主催：アーキワーク広島 連携先：TREES Work Session（団体ではなく任意のチーム）
④内 容	本プロジェクトの対象である旧陸軍被服支廠倉庫（以下、当該建物）は、広島市内最大級の近代化遺産であり、建築史上の価値は高く、貴重な被爆建物でもある。しかし、それら本来有する価値が十分に認識されておらず、空き家状態の当該建物に市民が立ち入れないために価値が認識される機会もなく、地域資源として発掘されていない「宝の持ち腐れ」状態にある。そこで、本プロジェクトでは、当該建物について市民に「触れる機会」「知る機会」を提供し、価値を共有することを目的と設定した。 （１）一般市民向け建物見学会の開催 当該建物について、これまで一般市民が立ち入れない状況であったため、より多くの市民に当該建物を知って頂くための見学会を開催した。具体的には、2016年11月19日および20日の二日間に渡って、当該建物の敷地内（国が管理する部分を除く）を開放したほか、建物内の見学ツアーを実施した。ツアーでは建物の多面的な価値が理解できるよう解説を工夫した。なお、ヘルメット着用が必要であるため一度に内観できる人数を15人に制限し安全確保に努めた。来場者数は二日間で264名であった。 （２）シンポジウムの開催 日本建築学会が平成26年度に行った学術調査の結果や各地の類似事例を報告し、パネラーや市民を交えた意見交換の中で当該建物の価値を共有し保存再生を考える、公開シンポジウムを2016年11月20日に広島県立美術館講堂にて開催した。パネラーとして、レンガ建築の再生経験のある専門家を招聘した。 （３）ワークショップの開催 当該建物をどのように再生させるか、アイディアを出し合う公開ワークショップを開催した。具体的には、上記見学会と同日に、当該建物に隣接する県立工業高校の関連施設にて大学生による模型製作を行い、完成した模型を当該建物近くに設置してアイディアを貼りつける方式とした。その結果は上記シンポジウムで報告された。 （４）紹介冊子の作成および配布 上記(1)-(3)を取りまとめて、建物の価値やイベントの様態を伝える紹介冊子を作成・配布した。

⑤実施効果	・当該建物の見学会やシンポジウムは多くの来場者を集める結果となり、関心の高さを再確認することができた。（見学会での内観ツアーは当初定員 120 名で設定していたが、当日の来場者数が多く、急きょ追加のツアーを設定して対応した） ・シンポジウムに登壇する専門家による現地視察も行われ、いくつかの知見はシンポジウム内にて示された。 ・イベント等の様子は地元メディア（中国新聞、毎日新聞、読売新聞、広島テレビ）にも取り上げられ、当該建物の存在も含めて広く紹介された。 <2016 年 11 月 21 日付 中国新聞> <2016 年 11 月 23 日付 毎日新聞>
⑥ 目的の達成状況	・本プロジェクトは新聞などのメディアにも取り上げられ、価値共有という当初設定した目的は達成できたと考えている。 ・ただし、本プロジェクトの中長期的な目標である「地域アイデンティティ醸成」「広島デルタ南部への訪問者の増加」に直ちに結びついたとはいえず（そもそも短期で達成できる目標ではない）、今後の継続的な取り組みが必要と考えている。具体的には本プロジェクトで製作した紹介冊子を有効に使いながら、更なる存在アピールや価値共有を進めていきたい。 ・実施上の工夫としては、幅広い層の人に知ってもらうため、若手建築家等のチーム「TREES Work Session」と連携して学生など若手で関心を持ってくれる人にアプローチした点にある。また、紹介冊子についてはデザインを手に取りやすいものとし、主要部分に英訳を付けるなどの工夫も行っている。
⑦ 今後の課題・展望	・当該建物については、広島県が再調査を予算化するとの報道がなされている（2017 年 1 月 11 日付中国新聞ほか）。これまで 20 年間放置されてきた状態から考えれば前進といえるが、多大な費用と時間がかかる保存再生には市民の合意形成が欠かせず、これまで以上に当該建物の多面的な価値の訴求の必要性が増すものと考えられる。 ・また、⑥に記したように、本プロジェクトの中長期的な目標達成に向けた継続的な取り組みも課題として残されている。 ・そのため、当面は、本プロジェクトで製作した紹介冊子を有効に活用しつつ、2017 年度以降も現地見学会を継続的に開催することとしたい。なお、開催にあたっては広島県のイベント「ひろしまたてものがたりフェスタ」との連携が想定される。また、市民参加によるアドプトプログラム（敷地内清掃等）の可能性検討は 2017 年度以降も継続したい。